

## 社会福祉活動の要路確保

(アメリカ)



### ＜深刻化する専門職員の不足＞

1960年の統計によれば、アメリカの社会福祉事業従事者の80%は、いわゆる完全な専門教育——つまり大学院における2カ年の修士課程——をうけていない。しかも、社会福祉事業は年を追って発展し、必要な専門職員の数は増大するばかりである。現在、全国で70にのぼる大学院社会事業学校が、どんなに学生の数を増やすようにつとめてみたところで、入学させ得る学生の数は希望者の5分の1か6分の1にすぎないし、卒業生も全国で4,000名を超えることはむずかしい。しかし、ニューヨーク州だけでも、いま空席のままにおかれている専門職員のポストは4,600

もある。来年はもっと多くの人間を求めて、しかも得られぬ状態がつづくであろう。年を追って深刻化の一途をたどるこの人手不足の問題をどう解決するかは、実に国家的な一大問題であり、まったく新しい考え方に基いた思いきった対策と、関係諸分野間の緊密な協力体制が必要である。

### ＜4年制大学における社会事業専門教育の重視＞

1966年の秋、社会事業教育協議会 Council on Social Work Education は「社会事業専門教育を大学院に限定している現状に対しては、社会事業界の内外から批判の声があがっている」といい、4年制大学における社会事業教

育のあり方についていろいろな相談にあずかるコンサルタントをおいたり、大学の先生たちのための夏期講習会を開いたりなど積極的な諸活動を展開して、4年制大学のレベルでの専門教育の改善にのり出している。これに呼応して、サンデューゴ州立大学や、ミネソタ大学などにおいては、同校の大学院社会事業学校が、それぞれ大学のレベルでのモデル的専門社会事業教育を開発していこうとするプロジェクトを進めている。

### ＜求められる職務の明確化＞

社会福祉事業の分野に、大学だけを終えた者をも積極的に専門家として受入れていく前提としては、大学院での教育を終えた者とは違う内容の専門的な仕事を与えられねばならぬということがある。つまり、社会福祉の分野の専門的な仕事にも、いろいろなレベルの知識と技術を必要とするものがあり、職員の配置も与えようとするサービスのレベルに見あって行なわれなければならない。その施設が与えようとするソーシャル・サービスには、どんなレベルの職務があるかを明確に分

析すること、それぞれの仕事にはどのような教育と訓練をうけた人間がふさわしいかを決定すること、資格と機能のちがいにもとづいて、合理的な給与体系を作りあげるための方法を考えることなどにおいて、社会事業学校と施設の協同研究が必要である。

### 〈大学院教育も充実が必要〉

社会事業学校と社会事業施設との「パートナーシップ」は学校は施設なしでは学生に学習を与えることができず、施設は学校に依存して職員の補充を行なっているという、ぬきさしならぬ現実に根を下ろしている。しかし、このパートナーシップも再検討が必要である。たとえば、学校教育の内容と施設における実習の内容との間にはあまりにもギャップがありすぎると指摘する者は少なくない。「学校側は施設の現状がどうなっているかに関心を持たな過ぎる」という声や、「施設はどうして学校教育の内容に同調できないのか」といった声をなくするために、リーダー Arthur Leader は 1965 年に、施設に席をおいた実際のワーカーであり、同時に学校では教

育者でもあるといった臨床教授の体制を提案している。シカゴ大学が、最近同校の一部として大学病院的な機能をはたすソーシャル・サービス・センターを設立したことは、大学院での専門教育の新しい方向を示唆するものといえよう。

学校と学習機関である施設とのパートナーシップを強化してゆくためには、次のような諸問題の解決に両者の緊密な協力が必要である。

1. 大学の二期制度を再検討し、三学期制、もしくは四学期制にして学生の増加をはかれないか？
2. 社会事業の学生は女子が多い。結婚後、仕事を離れていく者に対して、どう働きかけるべきか？ 同窓会はつねに社会福祉の新しい動向を伝え、「再教育」のための機会を設けるなどし、パートタイムの仕事を多く作っていくことができないか？ また大学には入れないが社会福祉に関心を持つ中年女性をどう教育し、役立てていくか？
3. 社会事業家が治療的な面よりも予防的な面での仕事をより多く進めていけるように

するためにはどうすべきか？ たとえば申請手続の改正や所得保障政策の充実によってケースワーカーが公的扶助における受給資格の認定についやす多くの時間を他の仕事に効果的に振りむける事はできないか？

4. 実習機関には実習生を教育するために、かなりの経済的負担が要求されている。この負担を軽くするような措置がとられるべきではないか。

Jack Adler & Jacob L. Trobe, "The Obligations of Social Work Education in Relation to Meeting Manpower Needs at Differential Levels in Social Work", *Child Welfare*, Vol. XLVII, No. 6 June 1968, 346-350pp, The Child Welfare League of America, Inc.

(前田ケイ 東京YWCA)